

住之江まつりって？

区内の社会教育団体が人と人とのつながりやきずなを感じてもらうために企画し、地域ボランティアさんも含め総勢1,100人を超える人々によって作りあげられる住之江まつり。今年でなんと43回目を数えます。今月号では支えるみなさまをご紹介しながら住之江まつりお楽しみポイントをピックアップ!!



Q 住之江まつりで出している“焼きそば”がすごい名物だとか。なぜ焼きそばを作るようになったんですか？

宮下 歴史はものすごく古いです。何年も続いたんですが、鉄板などの運び手がいなくなってきた、もう誰もおらんってなつたとき、俺がやると(笑)。ソースは秘伝で教えてくれなかったの、自分で何種類もソースを買ってきて、いろんなスパイスとかも調合しながら作った俺流の秘伝です。

Q ふだんの活動の様子を教えてください。

角田 いろんな団体との連携があるので、その会議などに出るほか、地域の子どもたちを対象に、キャンプや祭りなどを行っています。前は、ミカン狩りなどにも行きましたよ。

宮下 清江校下では、子ども会も青少年福祉委員も、どこが主催とかは関係なく、とにかくみんなで協力してやっています。キャンプの他にも、とにかく盛りだくさんです(笑)。

Q 青少年指導員になったきっかけは？

角田 近所で指導員をしていた方に頼まれて。自分が小学校の頃、青少年指導員さんにキャンプへ連れて行ってもらったりして、とても身近な存在だったのですんなりと引き受けました(笑)

宮下 子ども会が始まりで、小学校のPTAをやりました。中学校にあがってもPTAをやろうとしたとき、いろいろしんどさを抱える子どもたちをなんとかしよう和学校や地域と話す中で、青少年指導員さんともつながりができて、つぎは自分だぞ、やらなきゃいけないんだぞという、そんな感じで引き受けました。

井上 僕の出身は兵庫で、妻は京都。住之江区に移った時は、近所づきあいしようにも知らない人ばかりだったんです。それで、いろんな人と知り合いになりたいと思い、小学校のPTAをやろうと思ったのがきっかけです。PTAでは、たくさんの方と知り合えて、その方たちが自分だけでは目の届かないところでうちの子どもを見守ってくれて、様子を教えてくれたりしてすごく安心感がありました。楽しく活動しているうちに、青少年指導員にと声をかけていただき、PTAの活動にも慣れたところだったので視野を広げるいいきっかけになると思い引き受けました。



連絡協議会会長
角田 実広さん

? 「青少年指導員」って何するひと？

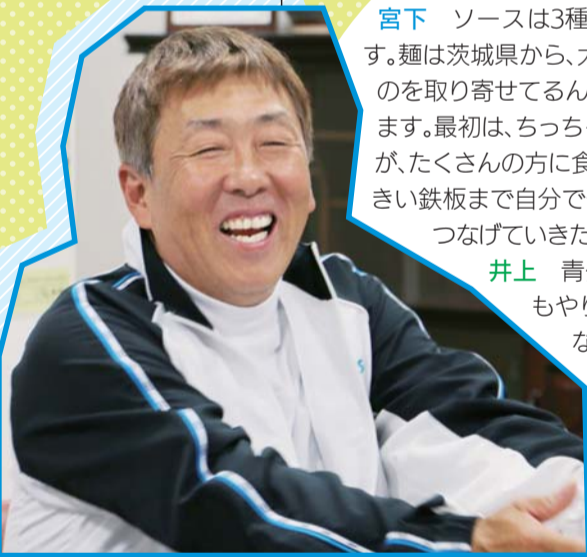
なじみのない方も多いかもしれませんが、大阪市から委嘱を受けて、実はとっても身近で子どもたちのために活動してくださっているんですよ。

住之江区の青少年指導員さんに聞く！



知る人ぞ知る “青指の名物こだわりの焼きそば!?”の秘密

連絡協議会副会長
宮下 道朗さん



Q 焼きそばのこだわりポイントは？

宮下 ソースは3種類をブレンドしています。麺は茨城県から、太くてムチムチ感のあるものを取り寄せてるんですよ。昼過ぎには売り切れれます。最初は、ちっちゃい鉄板で始めたんです。それが、たくさんの方に食べてもらえるようになって、大きい鉄板まで自分で作っちゃいました。ぜひ、後輩につなげていきたいですね。やめられません!

井上 青少年指導員は大変だけど、とてもやりがいのある仕事。きっかけはなんでもいいんです。焼きそば食べて、味を知ってもらって、いっしょにやりたいて思ってもらったらそれもありです(笑)

Q やりがいを感じるのはどんなときでしょう？

井上 それはもう子どもの笑顔でしょ。

宮下 「おっちゃん」と嬉しそうに言ってくれるだけでいい。それだけでいい(笑)

角田 こどもはよく覚えてくれてるんです。いつまでたってもキャンプのおっちゃんって、ほんとううれしいですよ(笑)

井上 巢立っていてもまちで声かけてくれるんです。こっちは「お前誰や(笑)」ってわからないくらい大きくなってもずっと。その子たちが大きくなって、いっしょにやれることがあるのもすごくやりがいになります。



清江校下
井上 利明さん